



北海道再生!!

— 一人に温かい道政 —

道政ニュース

高橋とおる

発行 2020年冬～春号 No.68

高橋とおる事務所

〈自宅〉函館市美原4丁目2番14号
TEL・FAX 47-0867



中国遼寧省人民代表大会常務委員会 康 捷 (カン・ジェ) 副主任と会談 (11/15) 瀋陽

二〇二〇年 年頭に当たって

皆様には新しい年をつつがなくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、統一自治体選挙で多くのご支援をいただき、当選後の道議会臨時会では副議長を拝命いたしました。これもひとえに皆様のおかげと深く感謝申し上げます。次第です。

そして、北海道知事も鈴木知事へ交代し、道民の期待を一身に受けての船出となりましたが、支える与党が一枚岩では無く、三回の本会議を経てもなお、知事の政治的基盤は脆弱なものとなっています。

目玉公約であった「ほっかいどう応援団会議」も、何をやりたいのか具体的な内容に乏しく、道の職員さえもその全容を道民に説明できるものを持ち合わせていないと言ったのが実態だろうと思いますし、私たち議員もよく分からず、これが北海道の未来にとってどのような効果をもたらすのかも定かではありません。そのような中、初めての本格的な予算編成が行われており、どのような政策に着手するのか注目がされています。

私も、今までは会派の会長として会派運営を中心に担ってまいりましたが、今は、議長を補佐すると共に、議会全般を俯瞰して公平な立場で各会派のとりまとめを行うことと、議会改革にも力を尽くして参りたいと思っております。

副議長の職は二年間で、この一月で既に九ヶ月が経過することになりました。新幹線札幌延伸時の新函館北斗駅～現函館駅までの並行在来線存続も含め、様々な課題に取り組んで参ります。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。結びとさせていただきます。

北海道議会議員 高橋 亨

第四回定例道議会報告

第四回定例会は、一月二六日から二月二日までの一七日間の日程で開催され、一般会計六一億六九〇〇万円、特別会三億八〇〇万円の合計六四億七七〇〇万円の補正予算を計上、農業施設や治山施設、土木施設などの災害復旧事業や公共事業端境期における道の単独事業の前倒し、北海道人事委員会勧告による給与改定費など所要の経費を可決しました。ま



第4回定例道議会にて (12/2)

た、条例案については「北海道無料低額宿泊所の設備及び運営に関する基準を定める条例案」、「卸売市場法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例案」などを審議しました。とりわけ、今定例会の大きな課題でありました「IRカジノ誘致」の判断については、今回は手を挙げませんが、次の機会には手を挙げると力強く答弁しました。

また、幌延深地層研究センターの研究期間延長については、「今後とも三者協定が遵守されること、当該の幌延町が研究期間の延長を受け容れる事から、道としても受け入れを判断した」とのことでです。

いずれにしても、知事の答弁は政治家鈴木知事の言葉では無く、前高橋知事同様に事務方が用意

IRカジノへの知事判断

知事自ら年内に判断すると明言していた「IRカジノ誘致」問題は、今定例会注目の課題でした。

知事は、「当該地は希少な動植物が生息する可能性が高く、今回、区域認定までの限られた期間で環境への適切な配慮を行う事は不可能と判断した。しかし、IRは民間投資や域内需要の拡大など幅広い効果が期待され、本道全体の経済社会に大きなインパクトをもたらし、持続的な発展に

したペーパーを読み上げるだけという従前からの議会風景が繰り返され、若さと清新さが感じられない姿だけが印象に残った議会でした。

て、七年後に改めて誘致に関する募集を行うという事ですから、次の機会には実質二八年ということになります。

知事は、一九年に当選しましたから時期選挙は二三年、そして三期目が二七年となりますので、それぞれの選挙に出馬し当選すると仮定をすれば三期目当選後に判断することになりますが、多分鈴木知事は三期終了後には国政へと転身するのではないかと思われま

す。そうならば、前知事のように自らの選挙のために評価が二分される課題については判断せずに先送りする可能性も有りま

す。

アリバイ作りならば、準備のための予算は無駄な支出となってしまいます。

新函館北斗駅～函館駅間の 並行在来線協議

春の選挙時に訴えまし
た「北海道新幹線札幌延
伸時における並行在来線
問題」における検討会議
設置につきましては、道
政ニュース第六五号でも
お知らせしましたが、初
回の各自自治体首長による
ブロック会議の後、五回
の検討会や地域自治体と
の意見交換、現地視察な
どが行われました。

による首長級との意見交
換と今後の進め方につい
て、担当課長による事務
レベルの幹事会は、鉄道
の利用実態と今後の具体
的な検討手法について、
鉄道施設視察では、とり
わけ函館現駅と五稜郭車
輛所などの視察と資産価
値などについて調査を行
いました。

昨年度は、精力的に会
合を進めて来ましたが、
今回は、
今後の道議会におい
て、機構が要請している
「幌延深地層研究セン
ター」の研究期間の延長
について、知事は機構の
要請通り九年間の延長を



北海道新幹線札幌延伸時にJR
から経営分離が危惧される。
(函館駅に停車する函館ライナー)

今後は拙速にならず、そ
して重要な検討課題につ
いては十分に時間をかけ
て協議を進める事にして
います。

今後、道の担当部局
と連携を密にして情報を
得、皆さんに都度ご報告
して参ります。

幌延深地層研究センターの 研究期間延長

受けられました。

受け容れ理由として
△①放射性廃棄物を持ち
込まない事などを明記し
た機構と道、町による三
者協定に反しないことを
確認した②延長期間を九
年間と確認した③最終処
分場としないことや終了
後の埋め戻しを計画案に
書き加えたVことなどを
挙げました。

しかし、機構の兄玉理
事長は更なる再々延長に
含みを持った話をしてい
ます。知事が受け容れ理
由とした①については、
当然のことであり、改め
て確認するまでも無い事
ですし、北海道は全国で
唯一の「北海道における
特定放射性廃棄物に関す
る条例」があり、放射性
廃棄物は受け容れない事
を明記しています。

これを研究期間延長の
第一の条件とする知事の
意図が判りません。

また②は、どのような
研究に費やす期間が九年
なのか、その研究は九年
間で初期の目的に到達す
るのかという具体的な中
身が判らないままでは納
得出来ません。さらに③
に関わることは道、幌延
町、機構の三者協定に明
示している内容ですし、
①と重複しており、屋上
屋を重ねるだけです。

少しの前進は、埋め戻
しを研究計画に盛り込む
ようにしたということだ
けであり、知事が加えて
強調していた研究の進捗
状況についての公表も、
三者協定には毎年度研究
内容を説明する事が明記
されています。

したがって、何も進展
のないままに期間の延長
を認めたことになり、道
民の不安に応えたことに
はならないものと思いま
す。

写真で見る主な活動

※詳しい活動報告はホームページに掲載しています。

高橋 亨さん 北海道議会副議長就任をお祝いする会



札幌市内で開催された副議長就任をお祝いする会
(9/20)



建設中の道議会新庁舎を視察 (11/5)



北海道市町村文化財保存整備協議会からの
要望を受ける (11/6)



文化賞北海道文化賞・北海道文化奨励賞贈呈式
での祝辞 (11/6)



沖縄県普天間基地の状況を調査 (11/20)



北海道タバコ対策連絡協議会 長瀬会長（道医師会
会長）から道議会新庁舎への喫煙所設置をしない
旨の署名（約10万筆）を受け取る (12/12)

高橋とおるホームページ

私、高橋とおるが活動の中で感じる国政や道政等に関する想いを随時掲載しています。是非ご覧下さい。

<http://www.t-tooru.com/>

第4回定例会で採択された決議・意見書

- ◎私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書
- ◎将来にわたり安全・安心な医療制度の提供を求める意見書
- ◎大学入学共通テストに関する意見書
- ◎授業料減免制度の現行水準を維持することを求める意見書
- ◎日米貿易協定に関する意見書